

平成22年度

河瀬高等学校 学校評価

本年度の重点目標

- ・中高一貫教育校として、学習内容の深化と重点化を図り、確かな学力の向上に努める。
- ・個性や適性に合った進路を考えさせ、実現させるための学習環境や条件を整える。
- ・地域から世界へと目を向けさせ、国際理解教育を進めるとともに、自己発信能力を高めさせる。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	『魅力と活力ある進学校』を共通の目標とし、中高一貫教育校としての特色ある学校づくりを進めている。	B	B	B
	教育方針や教育目標、教育活動に関する説明を適切に行うとともに、保護者の要望を受け止め改善につなげている。	B	B	B
2 学習指導	授業時間を最大限確保し、シラバスに基づいた計画的な学習指導を行っている。	B	B	B
	公開授業・研究授業・自己研修等を通じて、確かな教科指導力向上を図っている。	A	A	A
	授業評価を積極的に行い、生徒の授業満足度を高めるよう努めている。	A	A	A
3 生徒指導	遅刻や服装違反を減少させることを中心に、基本的な生活習慣の確立を目指す指導を適切に行っている。	A	A	A
	生徒との良きコミュニケーションを深め、生徒の問題行動の減少に努めている。	B	B	B
	生徒の自治能力を高めさせ、生徒会諸活動の一層の充実発展を期している。	A	A	A
4 進路指導	進路の手引きや有益な進路情報に基づいて、個に応じた丁寧な進路指導を行っている。	A	A	A
	生徒の将来の夢や希望が実現できるよう、各教科の指導を徹底して行っている。	A	A	A
	生徒が意欲的に自分の将来を考え、決定できるように全教員が様々な場面で支援している。	B	B	B
5 特別活動等	中高一貫教育校にふさわしい異年齢による学校行事や交流活動を推進している。	A	A	A
	生徒の発達段階や学年に応じたLHR活動を計画的に行い、内容の充実を図っている。	B	B	B
6 学校図書館	教科指導や特別活動において図書室を積極活用し、利用の拡大を図っている。	B	B	B
	全校朝読書の充実や、快適な読書空間の確保により、生徒の貸出数の増大を図る指導を行っている。	B	B	B
7 保健・安全指導	登校指導・防災訓練など、生徒が安心して学校生活をおくれるよう取り組んでいる。	A	A	A
	教育相談やスクールカウンセラーを中心に、相談を受けやすい体制作りに取り組んでいる。	A	A	A
8 人権教育	あらゆる機会を通じて、命の尊厳と大切さを認識させる教育を実践している。	B	B	B
	人権意識を高め、お互いが認め合い、励まし合える集団の育成に努めている。	B	B	B
9 環境教育	すべての教科を通じて環境学習を推進し、身近な場で環境美化の体験活動を実施している。	B	B	B
	ISO14001の趣旨に則ってゴミの分別・減量化に努め、光熱水費の節減に努めている。	A	A	A
10 事務・管理	施設・設備の安全点検を定期的に行うとともに、学校環境の整備に努めている。	B	B	B
	中高一貫教育に係る施設・設備の更なる充実と整備を図っている。	C	C	C
11 その他 学校の取組み	国際理解教育の一環として海外修学旅行に向けて、マレーシアの高校との交流活動を幅広く展開している。	A	A	A
	総合的な学習の時間等を通して、地域や世界の結びつき等についての学習を推進している。	B	B	B
	地域との連携を深めるとともに、積極的にPTA活動を推進している。	B	B	B
	インターネット等を活用して、学校情報を地域や保護者に積極的に発信している。	B	B	B

(注)・評価表の見方： 6月 学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表
 10月 中間評価(自己評価)の公表(8月までの教育活動に対する中間評価)A B C Dの4段階評価で示す。
 3月 総合評価(自己評価・学校関係者評価)の公表(年間の教育活動に対する総合評価)A B C Dの4段階で示す。
 ・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
 ・A B C Dの基準は、肯定的な評価が75%以上をA、50%以上75%までをB、25%以上50%までをC、25%未満をDとする。